

DAIFUKU

Always an Edge Ahead



2016中国(広州)国際智慧物流裝備展覧会

株式会社ダイフク

BUSINESS REPORT

第100期 第2四半期報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日

証券コード 6383

第2四半期連結累計期間で過去最高の純利益、 通期予想も上方修正



代表取締役社長

北條 正樹

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、先進国では緩やかな回復基調にありましたが、中国経済の減速により、先進国・新興国ともに先行き不透明感が増えています。わが国経済は、製造業では受注の足踏み状態が見られる反面、流通業やサービス業ではネット通販やインバウンド(訪日客)消費などが追い風となって景況感が改善しました。

当社グループの業績は、第2四半期連結累計期間としては過去最高の受注高・売上高・純利益を計上しました。

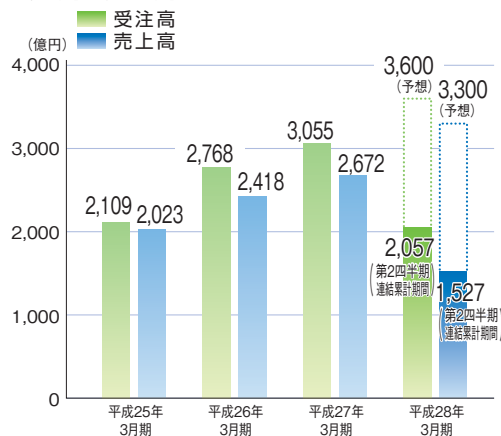
受注は、3年前(平成25年3月期)の年間受注高(2,109億円)に匹敵する規模となりました。日本や東アジアの半導体・液晶工場、デトロイトスリーの塗装ライン更新、台湾のeコマース、国内の電気機器メーカーなど、大型案件が集中しました。売上は、力強い受注に支えられ、順調に進捗しました。

この結果、受注高は2,057億54百万円(前年同期比40.9%増)、売上高は1,527億91百万円(同23.3%増)となりました。利益は、売上が大きく伸びたこと、ダイフク単体の収益力向上、アジア子会社の貢献により、前年同期を大幅に上回りました。

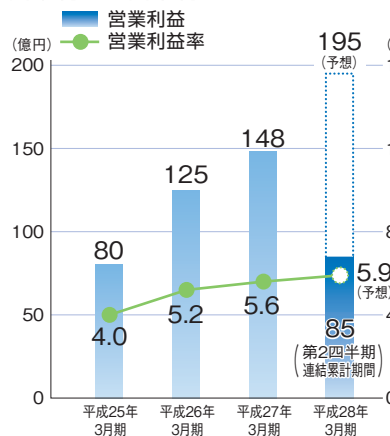
この結果、営業利益は85億47百万円(同51.5%増)、経常利益は91億30百万円(同48.5%増)を計上しまし

財務ハイライト

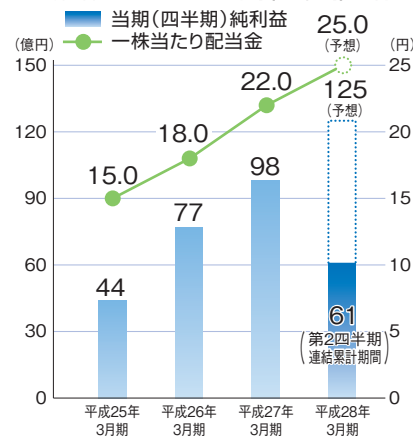
受注高・売上高



営業利益・営業利益率



親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



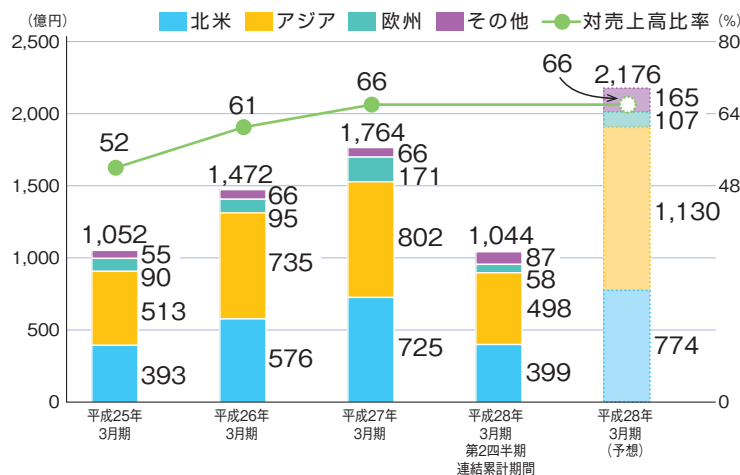
た。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は61億84百万円(同46.8%増)となりました。

また、通期業績予想を上方修正し、売上高3,300億円、営業利益195億円、経常利益200億円、親会社株主に帰属する当期純利益125億円としました。

マテリアルハンドリング・システムは、世界的にeコマース対応などの物流関連需要が増大していること、人手不足解消や生産性向上の観点でのわが国設備投資が活発であることなどから、今後も成長が期待されます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

海外売上高



株式会社ダイフク

受注・売上ともに好調 液晶工場向け大型案件が寄与

ダイフクは幅広い業種や地域のお客さまを対象にマテリアルハンドリングシステムなどの製造・販売を行うとともに、ダイフクグループの研究開発の中軸を担っています。当期間は、主に次のような業種や地域向けが受注・売上に寄与しました。

① 一般製造業や流通業向けシステム

eコマースやスーパー向け、医薬品、食品、電気機器など

② 半導体・液晶工場向けシステム

アジアや国内のスマートフォンや大型高精細テレビ関連液晶工場需要

③ 自動車生産ライン向けシステム

国内のサービスや小規模改造案件

利益は、半導体・液晶工場向けシステムの売上増、一般製造業や流通業向けシステムの原価改善などが奏功しました。

以上の結果、受注高は762億56百万円(前年同期比25.1%増)、売上高は633億91百万円(同21.4%増)、セグメント利益は42億67百万円(同77.6%増)となりました。



半導体メーカー向けシステム クリーンストッカー

コンテックグループ

医療機器業界向けが堅調

コンテックグループは、産業用電子機器の製造・販売を行っています。当期間は、国内は、IT関連需要の減速の影響を受けましたが、米国では、医療機器業界向けの産業用コンピュータの販売が堅調に推移しました。利益は、円安に伴う仕入れコスト上昇に加え、IoT市場向け製品の研究開発費増により減少しました。

以上の結果、受注高は72億60百万円(前年同期比7.7%減)、売上高は70億50百万円(同1.2%減)、セグメント利益は2億39百万円(同56.8%減)となりました。

M2M/IoT市場向け製品
スタック型コントローラー

DAIFUKU NORTH AMERICA HOLDING COMPANY(DNAHC)グループ

自動車生産ライン向けシステムの受注が好調

DNAHCは米国を統括する会社で、傘下企業間での再編・統合を進め、技術面やプロジェクト管理面においてシナジー効果を発揮しつつあります。当期間は、次のように推移しました。

① 一般製造業や流通業界向けシステム

工場用品のネット通販、運輸、衣料雑貨などが寄与

② 半導体メーカー向けシステム

売上が堅調に推移

③ 自動車生産ライン向けシステム

デトロイトスリー向け大型システムを複数受注し、受注高が大きく伸びました。

④ 空港手荷物搬送システム向け

新規案件の受注規模、採算が回復傾向

利益面では、自動車生産ライン向けシステム、半導体向けシステムの堅調な売上が寄与しましたが、利益率の低い一部案件があったこと、M&Aによって傘下に入った米国企業ののれんを今期から償却を開始した影響を受けました。

この結果、受注高は621億78百万円(前年同期比48.3%増)、売上高は377億89百万円(同2.6%減)、セグメント利益は3億99百万円(同38.3%減)となりました。

株式会社ダイフクプラスモア(DPM)・その他

株式会社ダイフクプラスモア(DPM)

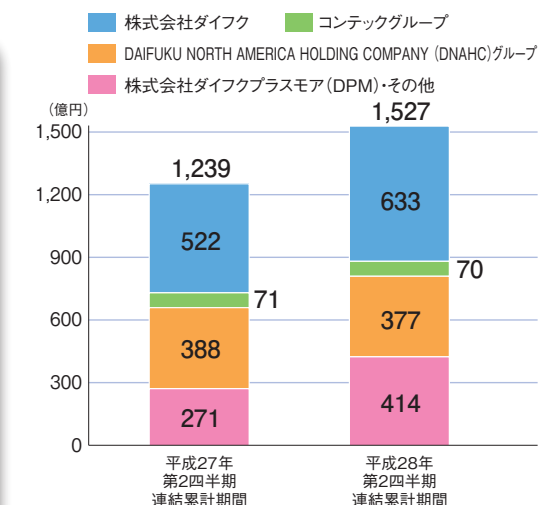
DPMは洗車機の販売を柱にボウリング設備、用品の販売、カゴ台車のレンタルなどを国内で行っております。当期間は、洗車機は老朽化更新需要などで引き続き順調に推移しています。

この結果、受注高は71億10百万円(前年同期比28.3%増)、売上高は63億17百万円(同22.0%増)、セグメント利益は76百万円(同219.4%増)を計上しました。

その他

その他はコンテック、DNAHC、DPM以外の国内外子会社です。当期間は、半導体や液晶パネル工場の設備投資が受注・売上に大きく寄与しました。受注高は529億48百万円(前年同期比78.0%増)、売上高は350億95百万円(同59.7%増)、セグメント利益は17億42百万円(同12.0%増)となりました。

■ 売上高

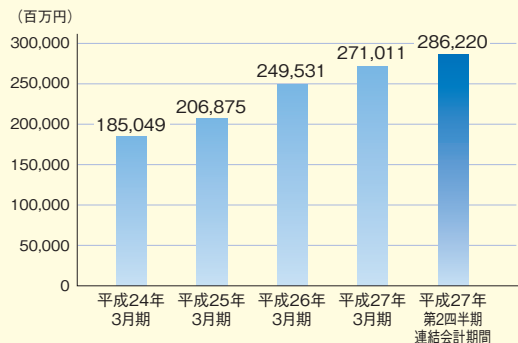


※1 売上高の総額は連結調整後の数値です。
 ※2 第1四半期連結果計期間より、「その他」に含めていた「株式会社ダイフクプラスモア」を新たなセグメントとして加えました。

総資産

2,862億20百万円

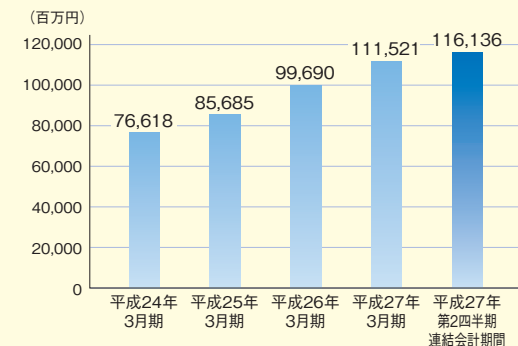
受取手形・完成工事未収入金等の売上債権が増加しました。



純資産

1,161億36百万円

利益剰余金が増加しました。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)	前連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産	203,048	185,041
固定資産	83,171	85,970
有形固定資産	33,360	34,673
無形固定資産	17,850	19,045
投資その他の資産	31,960	32,251
資産合計	286,220	271,011
負債の部		
流動負債	105,753	93,853
固定負債	64,329	65,636
負債合計	170,083	159,490
純資産の部		
株主資本	103,170	98,469
資本金	8,024	8,024
資本剰余金	9,281	9,239
利益剰余金	88,144	83,626
自己株式	△ 2,280	△ 2,419
その他の包括利益累計額	9,220	9,327
その他有価証券評価差額金	4,201	4,639
繰延ヘッジ損益	7	△ 72
為替換算調整勘定	10,731	10,542
退職給付に係る調整累計額	△ 5,719	△ 5,781
非支配株主持分	3,745	3,723
純資産合計	116,136	111,521
負債純資産合計	286,220	271,011

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	152,791	123,925
売上原価	124,299	100,650
売上総利益	28,492	23,274
販売費及び一般管理費	19,945	17,633
営業利益	8,547	5,640
営業外収益	893	787
営業外費用	310	279
経常利益	9,130	6,148
特別利益	542	463
特別損失	883	135
税金等調整前四半期純利益	8,788	6,476
法人税、住民税及び事業税	2,923	1,655
法人税等調整額	△ 430	379
法人税等合計	2,492	2,034
四半期純利益	6,295	4,441
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,184	4,212
非支配株主に帰属する四半期純利益	111	228

連結キャッシュ・フロー計算書

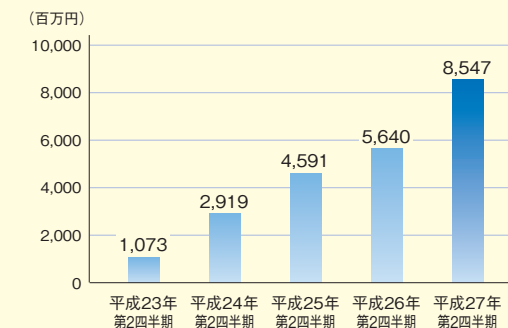
(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,770	△ 2,462
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 491	△ 407
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,587	△ 1,574
現金及び現金同等物に係る換算差額	132	△ 827
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,823	△ 5,272
現金及び現金同等物の期首残高	54,081	51,852
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	119
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,904	46,699

営業利益

85億47百万円

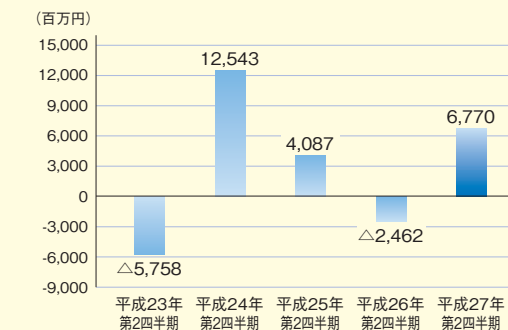
売上高の増大に加え、ダイフク単体の収益力向上、アジアグループ会社の好調な業績向上が寄与しました。



営業活動によるキャッシュ・フロー

67億70百万円

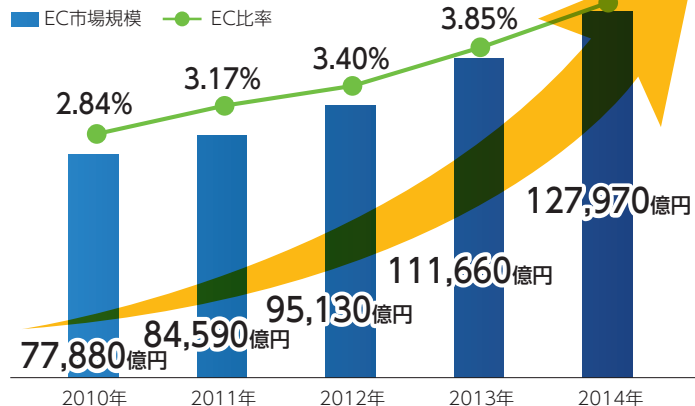
税金等調整前四半期純利益、仕入債務が増加しました。



国内外ネット通販を支える ダイフク製品

「いつでもどこでもスマートフォンで手軽に注文し、その日のうちに商品を受け取る」——eコマースがわれわれのライフスタイルを急激に変えつつあります。経済産業省の調査によると、2014年の国内eコマース市場規模は12兆円以上(前年比14.6%増)まで拡大し、商業全体に占める割合も年々伸びてはいるもののわずか4%強。まだまだ大きなポテンシャルがあります。ダイフクでもeコマース向けのビジネスに力を入れています。eコマースが物流システムをどう変えるのか、まとめました。

日本のBtoC-EC市場規模の推移



データ出所: 経済産業省2015年5月29日公表リリース

Q eコマースと従来の店舗型配送センターはどこが違うのですか？

スーパーなどで買い物をする際、われわれはどんな動きをするでしょうか。欲しい商品を欲しい量だけ棚から選んでカートや買い物カゴに入れ、レジまで運んで精算し、ショッピングバッグなどに入れて持ち帰ります。eコマースなどの無店舗販売では、お客さまが店舗で行うこうした動作すべてを配送センターが代行します。非常に多機能だということです。

また、従来の店舗型配送センターでは、配送先がエリア内の限られた数の店舗に特定されていました。eコマースの配送センターでは、不特定多数の個人のお客さまからけた違いに多いオーダーが寄せられます。店頭に置いてある物だけが対象ではなく、アイテム数は数万から数十万に及びます。配送時間もどんどん短縮し、当日注文・当日配送も珍しいことではなくな

りました。当然ながら、誤配送は許されません。多くのオーダーを短時間かつ高精度で処理する“瞬発力”が求められます。

物流という観点では、もう一つ大きな違いがあります。荷姿です。店舗型の庫内作業は、サイズの決まったパレットやケース単位でのハンドリングが主流でした。ネット通販では、形状や大きさがばらばらな商品一個一個(ピース)単位のハンドリングが必要です。この識別に、画像認識技術を用いることも増えてきました。

Q 具体的にはどんな物流設備・機器を使うのですか？

商品一個一個をピッキングする作業は、人手が主体です。一部の最先端ラインではロボットも使われていますが、様々な荷姿に対応できるフレキシブルさという点では、人が勝っているのが現実です。

ピッキングは、いかに少ない人員で大量の品物をさばくか、ミスなく正確に作業できるかが重要になります。人手不足の昨今はなおさらです。作業者が「ピッキングすべき品物がどれで、いくつ必要か」を瞬時に判断できる機器として、デジタル表示器を付けた棚を多用します。実際に、正しい種類、個数の品物をピッキングできたかをチェック(検品)する仕組みも取り入れられています。こうしたシステムではピッキング誤差10万分の3、無線表示器一体搬送の最新システム「eye-navi(アイナビ)」では、100万分の1を目指す高いレベルに達しています。

eye-naviを使ったピッキングの様子を動画でご覧になれます。
<http://www.daifuku-logisticssolutions.com/jp/product/picking/eye-navi/>

検品は要所要所でバーコードを読み取るのが一般的ですが、電子はかりを使い重量で検品する方法もあります。最近では、ウェアラブルのRFIDリーダーを装着するピッキングミス防止システム「SEVEN-9」(図)も登場しています。

配送センターの中核、ケース自動倉庫は高速処理に秀でた「シャトルラック」(写真)が主流になりつつあります。従来タイ



(図)ウェアラブル・ピッキングシステム「SEVEN-9」

プは1台のスタッカークレーンが棚の間を走行・昇降して荷物を出し入れしますが、シャトルラックは棚の各段で台車が同時に走行することで高い処理能力を実現しました。シャトルラックは、商品が届け先別に入れられたケースをランダムに格納し、トラックに荷物を積み込む際に出荷先別に高速で仕分け機に出庫する場合などに用いられます。

配送センターで一番自動化が遅れているのは、トラックへの積み込み・積み降ろしです。ダイフクは、米国でロボットを使う方法にトライしています。



(写真)棚の各段でシャトルが走行するシャトルラック

Q どんな業界・業種、国に納入していますか？

国内では生協の個配が無店舗販売の先駆けでしたが、工場・事務所用品、化粧品、衣料品、健康食品の配送センターなどに広がっています。また、既存店舗とネットの併用など、販売手段の多様化が進み、さらなる市場拡大が期待されます。

ネット通販は、国内にとどまらず、海外でも同時並行的に急増しています。例えば、お隣の韓国では、地方では店舗の数が少ないことから、日本よりも相当大規模なeコマース向け配送センターが稼働しています。北米や台湾でも大型受注を獲得しており、今後は中国が期待されます。

第8回 株主様向け「日に新た館」見学会

10月9日、10月28日に株主様向け「日に新た館」見学会を開催。今回は、日に新た館を初めてご見学いただく方を中心に、200名ほどの方に参加いただきました。

北條社長よりダイフクグループの事業および中期経営計画の進捗状況などを説明したあと、日に新た館で当社の主要製品をご覧いただきました。また、9月より新たに設置した製品「SPDR」^{スパイダー}もご見学いただきました。

日ごろなかなか見ることのできない当社システムを直接ご覧いただき、当社への理解をより一層深めていただきました。



製品トピックス



部品物流を進化させる 一時保管・仕分けシステム「SPDR」^{スパイダー}

自動車工場や自動車部品メーカーにおける部品物流現場のニーズを反映し開発した、一時保管・仕分けシステム「SPDR」^{スパイダー}。

棚がないため、ケースを最小スペースで配置でき、高効率保管や、ケースの段積み出庫など多彩な運用が可能です。また、ダイフク独自のアーム構造で、世界で初めて大小異なるサイズのケースを取り扱えます。

9月より日に新た館にも設置し、株主様向け「日に新た館」見学会でもご覧いただきご好評を得ました。

社是 The Company Creed

今日の「われ」は
 昨日の「われ」にあらず
 明日の「われ」は
 今日の「われ」にとどまるべからず

Today we are doing better
 than we were yesterday.
 Tomorrow we will be growing
 ahead of where we are today.



Hini Arata

経営理念 Management Philosophy

1. 最適・最良のソリューションを提供し、世界に広がるお客さまと社会の発展に貢献する。
 2. 自由闊達な明るい企業風土のもと、健全で成長性豊かなグローバル経営に徹する。
1. Provide the best solutions to benefit the global markets and the development of society.
 2. Focus on healthy, growth-driven global management under a diverse and positive corporate culture.

会社概要

(平成27年9月30日現在)

商号 株式会社ダイフク
 創立 昭和12年5月20日
 資本金 8,024,016,918円
 代表者 代表取締役社長 北條 正樹
 従業員数 7,799名(グループ総数)
 主な事業所 本社 〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11
 TEL:(06)6472-1261(代)
 東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-14-5
 TEL:(03)3456-2231(代)
 事業所
 滋賀 〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
 TEL:(0748)53-0321(代)
 小牧 〒485-8653 愛知県小牧市小牧原4-103
 TEL:(0568)74-1500(代)
 支店 北海道、東北、新潟、北関東、東京、藤沢、静岡、名古屋、
 東海、北陸、大阪、中国、九州
 海外 支店や現地法人を22の国と地域に展開。物流システム
 関係の生産拠点として中国・台湾・韓国・タイ・インド・米
 国・カナダ・イギリスにそれぞれ工場を有し、世界最適地
 生産体制を構築

役員一覧

(平成27年9月30日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	北條 正樹
代表取締役副社長 副社長執行役員	田中 章夫
代表取締役副社長 副社長執行役員	猪原 幹夫
取締役専務執行役員	本田 修一
取締役常務執行役員	岩本 英規
取締役常務執行役員	中島 祥行
取締役常務執行役員	佐藤 誠治
取締役常務執行役員	下代 博
取締役	柏木 昇
取締役	小澤 義昭
常務執行役員	井狩 彰
常務執行役員	木村 正
常務執行役員	阿武 寛二
執行役員	佐々木 健
執行役員	信田 浩志
執行役員	堀場 義行
執行役員	岸田 明彦
執行役員	林 智亮
執行役員	上本 貴也
執行役員	西村 章彦
執行役員	一之瀬 善久
監査役(常勤)	黒坂 達二郎
監査役(常勤)	木村 義久
監査役	内田 晴康
監査役	北本 功
監査役	鳥井 弘之

(注)取締役 柏木 昇、小澤義昭は、独立社外取締役であります。
 監査役 内田晴康、北本 功、鳥井弘之は、社外監査役であります。

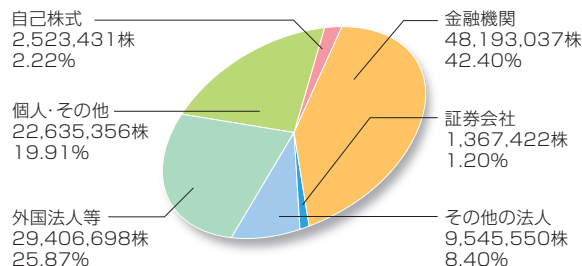
株式情報

(平成27年9月30日現在)

発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式総数	113,671,494株
株主数	16,072名

*前期末より株主数が3,128名増加いたしました。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.daifuku.com/jp/ir/stock/notice/>

上場証券取引所	東京第1部
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

第100期 中間配当金のお支払いについて

第100期中間配当金は、平成27年11月10日開催の取締役会にて、1株につき10円と決議しております。同封の「配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店および出張所ならびに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間(平成27年12月4日から平成28年1月4日まで)にお受け取りください。

なお、振込先をご指定の方には「配当金計算書」および「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」および「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

また、株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問合せください。

配当金計算書について

配当のお支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

なお、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いいたします。

(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ (0120)782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

DAIFUKU
Always an Edge Ahead

株式会社ダイフク

本社：〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11 TEL:(06)6472-1261(代)

東京本社：〒105-0014 東京都港区芝2-14-5

TEL:(03)3456-2231(代)

www.daifuku.com/jp/